

中学生の思いが市政を動かす

子ども議会

中学生ならではの鋭い視点で、ズバッと切り込む
ふるさと発展への熱い思いを語った「平戸市子ども議会」
大人顔負けの一般質問が、市議会議場で繰り広げられた

問 学校教育課指導班 ☎内線2615



演壇に立ち質問する子ども議員

「はい、議長、一番」と声高らかに挙手し、鋭い質問を市側に投げかけます。
8月25日、市役所4階「市議会議場」において、市内9校の中学校を代表して集まった18人の生徒たちが、教育長から「1日議員」に任命され、平成29年度「平戸市子ども議会」が開催されました。
名称は「子ども議会」ですが、



再質問で、さらに厳しい質問を投げかける

質問の内容は「イノシシ対策について」や「平戸市のマイナンバーの活用方法について」「統合後の堤小学校・中津良小学校の校舎について」など、大人顔負けの鋭いものばかりで、会場は本日の議会さながらの緊張感が張り詰めていました。

「子ども議員」たちは、初めての議場で当初は非常に緊張した面持ちでしたが、自分の質疑の番になると堂々と演壇に登壇。自身のふるさと「平戸」の発展への思いを熱く語りました。質問後は再質問も行い、さらに具体的な内容の質問を市側に投げかけ、これに対し、市側も真摯に受け答えを行いました。

また、議会の合間の昼休憩に開かれた昼食会では、議長、市長、副市長、教育長と食卓を囲み、学校生活のことやプライベートのことなどを談笑しました。
参加した「子ども議員」は「今回、議会を通して平戸市を良くするために意見交換し、平戸市についても深く知ることができて、良い経験になりました」「この体験を生かして私も中学校を今より楽しくできよう、いろいろと考えていきたいと思います」などと、この貴重な経験の感想を話しました。

市は、今回「子ども議員」から投げかけられた提言をしっかりと受け止め、今後の市政の発展のために生かしていきます。



答弁する市長。子ども議員の質問に真摯に答える



市側も全理事者がそろい、本議会さながらの様子



手を上げ再質問する子ども議員



貴重な体験を終え、緊張感から開放され和やかな顔で集合写真に写る子ども議員たち

interview

参加した中学生と教育長に「子ども議会」について話を聞きました

南部中学校
3年
おおいし かな
大石 佳奈 さん



議場は独特な雰囲気です。「ここで平戸市の話が話されているんだな」ということを肌で感じる事ができました。議会では、他の中学生の意見も聞き、平戸に対する熱い思いが伝わってきました。市からの答弁も詳しくいいので、市長や議員の皆さんが常に平戸のことを考えていることがよく分かりました。

昼食会で、市長や副市長・議長・教育長の皆さんが、私たちの将来について語ってください、次に平戸を支えていくのは自分たちなんだと少し実感が湧きました。

平戸市教育長
おがわ しげとし
小川 茂敏



子ども議員の皆さんの質問は、身近な学校の問題から、産業、福祉医療、生活環境、定住にいたるまで、中学生の鋭い視点からの質問であり、本市にとって重要な問題ばかりでありました。さすがに各学校の代表として選ばれた逸材ぞろいだと感じました。皆さんが投げかけた質問は、必ずやこれからの市政施策の参考になると思います。

いつの日かこの中から、議員また市長としてこの議場に立っている人が現れることも期待したいものです。